

## 2025年度事業報告

### ■ 総会・理事会

日時：2025年5月28日 19時～20時

会場：横浜市社会福祉センター（参加理事・監事18名、事務局4名 計22名）

### ■ 小児保健支援者研修会

日時：対面・・・2025年10月16日 14時～16時 川崎市医師会館 3階ホール

アーカイブ配信・・・2025年10月27日～2026年1月9日

参加費：対面・アーカイブ配信 無料

テーマ：「シンポジウム・川崎市における5歳児健診の取り組み～個別健診方式～」

座長：埼玉県医科大学総合医療センター小児科教授 是松聖悟氏

シンポジスト：川崎市児童家庭支援・虐待対策室母子保健担当課長 村山智子氏

すずか小児科・皮膚科クリニック院長 鈴木隆久氏

川崎市総合リハビリテーション推進センター

中部地域相談担当係長 小林直子氏

参加者数：対面21名 アーカイブ配信319名申し込み

### ■ 神奈川県小児保健協会ホームページ

「理事からのメッセージ」「協会のおすすめ文庫」「facebook」随時更新

### ■ 運営委員会

日時：2025年12月3日 18時30分～19時30分

方法：オンライン開催（参加理事6名、事務局3名）

### ■ 神奈川県小児保健協会だより（第25号） 2026年3月発行



### 大崎会長退任について

大崎逸朗先生には、後藤彰子先生から引き継いでくださった5年間の神奈川県小児保健協会を、本当にあたたかく見守り導いていただきました。事務局との企画打ち合わせなどでは、それぞれの意見を否定することなく、しかしきっちりとご意見いただき、常に道標となるべく牽引いただいた事に心から感謝いたします。ありがとうございました。この先も、子どもたちと私たちを見守り応援していただくと嬉しいです。

神奈川県小児保健協会事務局長  
星野陸夫

### <協会ホームページ案内>

療育機関情報や研修情報、偏食外来パンフレットなど掲載しています。「神奈川県小児保健協会」で検索、もしくは下記二次元バーコードよりアクセスしてご覧ください。



### <事務局>

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構  
神奈川県立子ども医療センター 母子保健推進室内  
〒232-8555 横浜南区六ツ川12-138-4  
電話 045-711-2351 FAX 045-710-1933

## 神奈川県小児保健協会だより 第25号2026年3月

### 巻頭言



神奈川県小児保健協会  
会長 大崎 逸朗

開幕前は不人気が予想された関西万博は予想を超えた人であふれ盛況のままに終結しました。暑い夏をものともせず、待ち時間2時間を超えるパビリオンもありました。

お米の高騰に始まり、牛乳、卵、野菜等々、食品の値が跳ね上がり、ミルクやオムツなど育児用品までも値上げして暮らし、育児を圧迫しました。これに倣い、こどもの出生率も上がってくるといいのですが、今年は丙午年に当たる年で却って出生率は下がることが心配されます。以前の丙午年では出生率は前年比25%も低下したそうです。今はこんな迷信に左右されることはないでしょうが、出生率はどうなるでしょうか。

さて子どもの数が減る中で子どものより良い成長を促すための一つとして5歳児健診が導入されました。そこで昨年、小児保健支援者研修会でも5歳児健診を取り上げましたが、県内ではまだ多くの市町村で踏み切れていません。最初は、健診後に支援が必要とされた子どもの受け皿となる療育機関に限りがあることが心配されていましたが、実はそ

の前に、担当してくれる医師、その他の職種の確保に苦労している市町村も多いことが明らかになりました。また昨年の研修会で気づかれたことは小学校の先生方の関心の高さでした。5歳児健診をきっかけに支援の必要な子どもに対し、療育機関だけに頼ることなく、多職種で連携していかに支援を進めるのが、大切とされました。来年度も研修会で、5歳児健診を取り上げていきたいと考えています。

昨年はインフルエンザ、特にこれまで選択されてきた抗生剤に耐性のある百日咳、マイコプラズマ肺炎などの感染症が話題になりました。

新生児のマスクリーニングは重症複合免疫不全症、脊髄性筋萎縮症を加えた拡大マスクリーニングテストが全国的にほぼ定着しました。現在さらにライソゾームの検査が県ごとに違いがあるものの導入されて来ています。未だに始められていないのが神奈川県を含む2県となりました。そこで今、神奈川県でも医師会を中心に2027年度に向け導入の動きがみられています。

子どもの健やかな成長をめぐる動きには目が離せません。引き続き、良い方向に向かうことを願うばかりです。



## 川崎市における5歳児健診の取り組み～個別健診方式～

日時: 2025年10月16日14時～16時 会場: 川崎市医師会館 3階ホール  
 アーカイブ配信: 10月27日～1月9日  
 参加費: 無料 参加者数: 対面21名、アーカイブ319名申し込み(視聴282回)



座長: 埼玉医科大学総合医療センター小児科教授 是松聖悟氏  
 シンポジスト: 川崎市児童家庭支援・虐待対策室母子保健担当課長 村山智子氏  
 すずか小児科・皮膚科クリニック院長 鈴鹿隆久氏  
 川崎市総合リハビリテーション推進センター中部地域相談担当係長 小林直子氏

今回は、昭和60年より個別健診方式で5歳児健診(以下健診)に取り組んでいる川崎市の皆様からシンポジウム形式でお話を伺いました。「行政の立場」として川崎市村山担当課長から、健診の流れ、運営上の工夫(問診票の見直し、あり方検討委員会を設けて医師会・療育センターと議論を重ねて実施要領を作成等)、専門機関への紹介者の割合、今後の課題(母子と障害分野との情報共有等)等のご報告をいただきました。「健診医の立場」として鈴鹿医師より健診の実際、健診技術力を向上させるための構造化や研修の工夫、今後の課題について熱くお話がありました。「フォローアップの立場」として川崎市小林担当係長からセンター設置の背景、相談支援の実際等についてお話しいただきました。座長の埼玉医科大学是松教授からは、全国における状況や、健診の意義、様々な方式、好事例などについて総括していただきました。大分県竹田市で健診後に8年間追跡調査をしたところ不登校児が減少した効果もお聞きして、あらためて継続支援の大切さを実感しました。

総合討論では、県内でこれから開始する行政機関が多いため、テーマをその助言に絞りました。「目的を明らかにして関係機関で協議すること」「まず始めることが大事でその中で改善を図っていくこと」等があがりました。フロアからも「神奈川県では健診に関する共同事業体も立ち上がり、医師派遣も可能」という発言もあり、健診開始への後押しを認識しました。

対面参加者は職種として医師、保健師が多く、「目的が子育て支援であることが印象的だった」「得られた情報が多かった」等の感想がありました。次年度もこの健診の研修を希望する声が複数ありました。アーカイブ配信は、医師、保健師、教員、保育士等幅広い分野から申し込みがあり、1割は県外からでした。「健診の意義がよく理解できた」「多職種連携の必要性を感じた」「アーカイブ配信があってよかった」などの感想がありました。次年度も引き続き、5歳児健診を取り上げてまいります。



## RSウイルスワクチンについて

神奈川県立こども医療センター検査科・感染制御室長 鹿間芳明

RSウイルスは気道感染症を起こすウイルスで、世界中に存在します。特に乳幼児で肺炎や細気管支炎といった下気道感染症を起こすことが知られていますが、高齢者や重症心身障害児でも重症化する場合があります。

乳児をRSウイルスから守るためのワクチンはかなり以前から研究されてきました。1960年代には米国でRSウイルスに対する不活化ワクチンの治験が実施されましたが、接種群が非接種群より入院率が高い(つまり重症化する)という散々な結果でした。その後も開発はなかなかうまくいかなかったため、「ワクチンで抗体を作らせて予防する」のではなく「抗体を外から入れて予防する」薬剤として「シナジス®」・「ベイフォータス®」が作られました。これらは確かに予防効果が高いのですが、高価な薬剤であり早産児などハイリスクな乳幼児に保険適応が限定されています。

2024年に、乳幼児ではなく高齢者や妊婦を対象としたワクチンが発売されました。「アレックスビー®」は高齢者対象、「アブリズボ®」は高齢者と妊婦を対象とするワクチンです。妊婦さんに「アブリズボ®」を接種するとRSウイルスに対する抗体ができ、その抗体が胎盤を通して胎児に移行するという仕組みで、生後間もなくの時期に予防効果が発揮されます。「アブリズボ®」は2026年4月から定期接種化されますので(対象は妊娠28週から妊娠36週6日目までの方)、妊婦さんへの接種をお勧めしたいと思います。

### 追悼 黒田達夫総長 (神奈川県立こども医療センター)

神奈川県立こども医療センター 外科部長・小児がんセンター長 北河徳彦



先生に初めてお会いしたのは学会のセミナーでした。まだ駆け出しの小児外科医であった私は、当時国立小児病院にお勤めだった黒田先生のたくさんの経験に基づいたご講義を拝聴し、このような外科医になりたいと憧れました。

その後、先生は慶應義塾大学小児外科教授となられ、日本小児血液・がん学会、日本小児外科学会の会長など、トップランナーとして疾走されました。

そして令和4年、ついに憧れの先生が総長として当センターに赴任されました。診療上の難題についてご教授いただいたことはもちろんですが、患者・家族の会である肝芽腫の会や病院の小児がんイベントにも積極的に参加されました。患者会で先生のお話に感銘を受けたお母さんの涙は忘れられません。

黒田先生は令和7年10月4日にご逝去されました。

もっともっと、いろいろなことを教えていただきたかった。悔しい思いが尽きません。黒田先生、長い間、本当にお疲れ様でした。どうか、ゆっくりとお休みください。